

寄稿

グリーンリビング ストリート

— にぎわいや交流が促進する、緑化された街路空間 —

(一社)Park Line 推進協議会 フェロー

所属 (株)NTT アーバンソリューションズ総合研究所 上席研究員
塚田敏彦

Keyword: リビングストリート, グリーンインフラ, ウォーカブル, ほこみち

1. はじめに

Park Line 推進協議会(以下 Park Line)では、地域の一員として、まちの回遊性・滞留性・快適性を向上させ、持続的な地域価値向上に資する、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを推進している¹⁾。

近年、生物多様性の動向と並び、都市緑地を含むグリーンインフラ(以下 GI)の保全や普及が進んでいる。本稿では Park Line の活動領域の1つであり、にぎわいや生活空間の延長として活用が進む道路空間において、GIが空間の主要な要素となる事例をグリーンリビングストリート(以下 GLS)と筆者が名付け、国土交通省の関連制度をもとにした事例抽出と紹介をする。

2. リビングストリート

道路空間をまちのアウトドアリビングに見立てて、日常的なにぎわいや交流の場として利用することで、地域の豊かな暮らしやコミュニティづくりにつなげる取り組みをリビングストリートと言う。発祥は 1970 年代のオランダに遡り、欧米で先行した取り組みである^{注1)}。

海外事例にはベルギーのゲントに、住宅地内の道路から自動車を排除し、代替の駐車スペース確保により、ポップアップバーやピクニックベンチ、人工芝等を配置して住民の居場所作りをする「Leefstraten (英訳 Living Street)」という取り組みがある。2013 年に始まった住民主導のボトムアップ・アプローチによる短期的な社会実験である²⁾(図1)。

図1 Leefstraten の社会実験 出典:国土交通省 海外事例の分析²⁾

国内事例には 4 章で紹介する、仙台市の定禅寺通りをまちのリビングに見立てた「定禅寺リビングストリートプロジェクト」や、豊島区のグリーン大通りや南池袋公園における、マーケットの開催やストリートファニチャーの常設化に向けた社会実験「IKEBUKURO LIVING LOOP」のほか、日立市³⁾や水戸市⁴⁾な

ど各地で道路空間の活用が試行されている。

3. グリーンリビングストリート

GI とは社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組みである(図 2)。国土交通省による GI 推進戦略 2023 では、GI の目指す姿や取り組みの視点を示すと共に、官民協働により、あらゆる分野・場面で GI の普及を目指し、同省の取り組みを体系化している(図 3)。「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」、「住宅・建築物・道路空間などの緑化推進」も戦略に位置付けられている。

リビングストリートの構成要素である GI のこのような重要性の高まりのもと、本稿では街路樹から植栽や芝生など都市緑地が空間の主要な構成要素となるリビングストリートをグリーンリビングストリート(GLS)と呼ぶことにする。

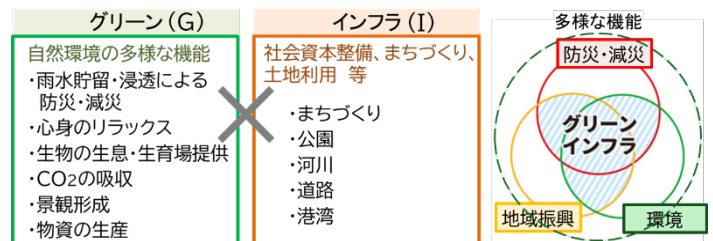


図2 グリーンインフラ(GI)の多様な機能

国土交通省資料をもとに作成⁵⁾

グリーンインフラで目指す姿「自然と共生する社会」						
自然の力に支えられ、 安全・安心に暮らせる 社会 (安全・安心)	自然の中で健康・快適に 暮らし、クリエイティブに 楽しく活動できる社会 (まち)	自然を通じて、安らぎと 繋がりが生まれ、子ども たちが健やかに育つ社会 (ひと)	自然を活かした地域生活 化により、豊かさや 賑わいのある社会 (しごと)			
「グリーンインフラのビルトイン」に向けた7つの視点						
連携	コミュニティ	技術	評価	資金調達	グローバル	デジタル
・自然環境を活用した流域 治水 ・都市緑化整備による吸収 源対策 ・雨庭、雨水貯留・浸透施設 の整備 ・建築物による木材利用 等	・居心地が良く歩きたくな るまちづくり ・自然豊かな都市空間づく りに配慮した不動産投資 市場の形成 ・住宅・建築物、道路空間 等の緑化推進	・環境教育の推進 ・自然豊かな遊び場の確保 ・かわまちづくり、多自然川 づくり ・ブルーインフラ拡大プロ ジェクト ・グリーンインフラコミュニ ティの醸成等	・環境教育の推進 ・自然豊かな遊び場の確保 ・かわまちづくり、多自然川 づくり ・ブルーインフラ拡大プロ ジェクト ・グリーンインフラコミュニ ティの醸成等		・景観・歴史まちづくりの 推進 ・観光資源の保全、地域社会 ・経済に好循環をもた らす持続可能な観光の 推進 ・カーボンクレジットの活用 等	
産学官金の多様な主体の取組の促進				実用的な評価・認証手法の構築		
新技術の開発・活用の促進				支援の充実		
「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」や経済団体と連携した国民運動の展開						

図3 グリーンインフラ推進戦略 2023 国土交通資料をもとに作成⁶⁾

4. グリーンリビングストリート事例

国土交通省における GI⁷⁾と 2 つのストリート活用制度(①まちなかウォーカブル推進事業⁸⁾(以下ウォーカブル)、②歩行者利便増進道路⁹⁾(以下ほこみち))を基にして、GLS の事例を抽

出する。3 制度の概要を表 1 に示す。3 制度は国・自治体・道路管理者が該当事例を選定・指定する制度であり、表の事例数は文献 10～15 を基にした集計値である。文献 11 を参考にして 3 制度の関係を図示する(図 4)。GI は①都市部、②郊外部、③農山漁村部に広く存在し、ウォーカブルは市街地、ほこみちは市街地における道路を対象としている。緑地などを対象にするGIに対し、ウォーカブル、ほこみちにおいて緑地は構成要素であるが必須要素ではない。またウォーカブルの対象はエリアであり面的であるのに対し、ほこみちの対象は道路であ

表 1 3 制度の概要

制度	グリーンインフラ・大賞 (第1回公募 2020年)	まちなかウォーカブル 推進事業 (2020年創設)	歩行者利便増進道路 ほこみち (2020年創設)
主管	国土省 総合政策局	国土省 都市局	国土省 道路局
概要	・自然を社会資本整備やまちづくり等に取り入れ、課題解決の基盤として、その多様な機能を活用する取り組み(グリーンインフラ)の優れた事例を表彰 ・防災・減災部門、生活空間部門、都市空間部門、生態系保全部門(1～3回表彰部門)	・「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりを推進する事業 ・市町村や民間事業者等が実施する、道路・公園・広場等の整備・修復・利活用、滞在環境の向上に資する取り組みを重点的・一体的に支援(税制、法律上の特例等)	・賑わいのある道路空間を構築するための道路指定制度・歩道等の中に「歩行者の利便増進を図る空間」を定めることが可能 ・特区区域では道路空間の活用を柔軟に許可 ・道路空間活用者の公募選定が可能、占用期間最長20年
事例数	244 (内訳:文献10～12)	165 (内訳:文献13, 14)	139 (内訳:文献15)

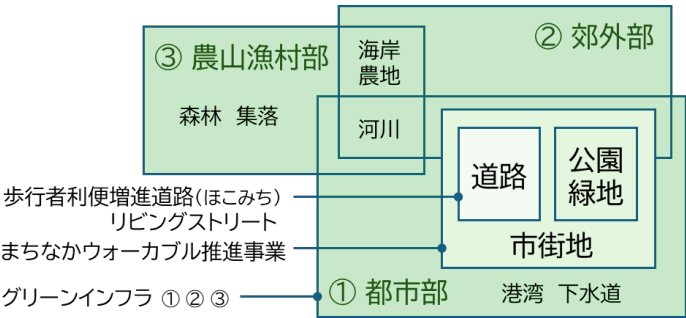


図 4 3 制度の対象範囲

国土交通資料をもとに作成¹¹⁾

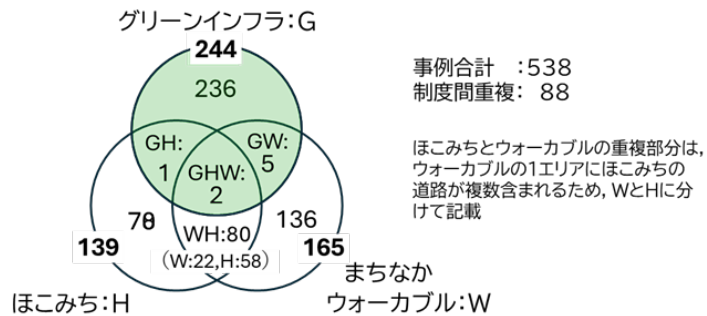


図 5 3 制度の事例数内訳

表 2 グリーンリビングストリート事例

自治体	名 称	G	W	H
宮城県 仙台市	定禅寺通り / 市道定禅寺通線 (青葉区)	○	○	○
埼玉県 朝霞市	シンボルロード / 市道8号線	○	○	○
群馬県 前橋市	馬場川通りアーバンデザインプロジェクト	○	○	—
埼玉県 さいたま市	おおみやストリートテラス	○	○	—
東京都 千代田区	丸の内ストリートパーク	○	○	—
広島県 福山市	本通商店街 / 本通船町商店街	○	○	—
愛媛県 松山市	花園町通り	○	○	—
神奈川県 横浜市	日本大通り / 国道133号	○	—	○
大阪府 大阪市	御堂筋 / 国道25号	—	○	○
神奈川県 横浜市	ガーデンシティ新横浜プロジェクト	○	—	—
東京都 豊島区	IKEBUKURO LIVING LOOP	—	○	—

G:グリーンインフラ, W:まちなかウォーカブル, H:ほこみち ○:各制度該当事例

り線的である。1つのウォーカブルエリアに複数のほこみち道路が含まれる事例が多い。GI には場所を特定しない組織的な取り組みも含まれる。

3 制度の事例数の内訳を図 5 に示す。3 制度の事例数は 2025 年 4 月時点で合計 538、制度間で重複する事例は 88 である。ほこみちとウォーカブルは類似制度であり、両制度は併用により効果が上がるため重複する事例が多いが、GI との重複事例は少ない。3 制度の重複部分(積集合)において GI が関係する積集合から 8 事例、GI が関係しない積集合から 1 事例、グリーン、ウォーカブル単独該当の事例から各 1 事例、合計 11 事例を GLS 事例として表 2 に示す。表の右欄に各制度への該当状況を○印で示す。表 2 には緑地が主要な空間要素となっても、グリーンに選定されていない 2 事例を入れている。

4.1 GLS のソフト面の特徴

おおみやストリートテラス、IKEBUKURO LIVING LOOP の 2 事例は社会実験として仮設的設えによりイベント的運用を継続中であり、その他 9 事例は恒久的なハード整備が伴っている。多くの事例においてハード整備の前後に、社会実験やワークショップによる整備内容の検討や有効活用が試行されている。

本通商店街/本通船町商店街、ガーデンシティ新横浜プロジェクトをはじめ多くの事例において、地域住民による計画づくりや植栽の維持管理などの運用への主体的な参加が見られる。

おおみやストリートテラスではプランターによる街路植栽を収益化するマネジメントが仕組みられている。GLS を検討する他の自治体にとって良い参考事例と思われる。

4.2 GLS のハード面の特徴

御堂筋では将来ビジョンを人中心のフルモール化とし、ファーストステップとして側道の歩行者空間化が現在進行中、定禅寺通りでは 2001 年のシンボルロード整備事業に続き、定禅寺通再整備による片側 2 車線化が現在進行中など、ハード面では段階的な整備が特徴として挙げられる。多くの事例は時代に合わせた整備であるが、御堂筋はバックキャストにより計画されている。

定禅寺通り、花園町通り、日本大通り、御堂筋などでは人中心の空間づくりを目的に、車線削減、歩道拡幅、自転車専用道や物流を支える空間の設置など道路が再構築されている。

拡幅歩道の活用方法には、植樹帯、オープンカフェ、マイクロモビリティポート、パークレット(ベンチ、プランター)、食事施設・購買施設、デジタルサイネージの設置などがある。

既存樹木保全や植樹以外に、シンボルロード、馬場川通りアーバンデザインプロジェクトでは、隣接する緑地や河川との一体的整備によるウォーカブルな空間作りになっている。

本通商店街/本通船町商店街や花園町通りなど、老朽化したアーケードを撤去して、街路樹など緑化を施した明るい街路とするとともに、維持費削減となる整備は他の自治体にとって良い参考事例と思われる。

ガーデンシティ新横浜プロジェクトやシンボルロードなど、緑地整備では雨水貯留・浸透型花壇による、雨水流出低減の取り組みが増えている。丸の内ストリートパークにおいてもレインガーデン(雨庭)の実証実験が 2022 年に行われている¹⁰⁾。

5. Park Line による日本大通り社会実証

横浜市の日本大通りは、ほこみち制度に2021年に指定された。Park Lineでは、ほこみち制度が目指す「歩きたくなるみち、居たくなるみち」の実現に向けて2022年5月の2日間に「公共空間マネジメント(滞留性向上)」に関する社会実証を、全面交通規制して創り出した100%リサイクル可能な環境配慮型人工芝エリアで実施した¹⁷⁾(図6)。両脇歩道の既存街路樹・植栽プランターに人工芝を加えた緑豊かな空間としている。緑化を含め実証では以下の取り組みを行い、にぎわいと滞留性向上を確認している。

- ・居心地の良い空間づくり(子ども・子育て世代をターゲット)
- ・ウェルビーイングに資するアクティビティの企画・実施
- ・ほこみち制度指定後の新たな道路空間活用方策の試行



図6 日本大通り社会実証¹⁷⁾

6. おわりに

国土交通省における都市緑地法改正に基づく優良緑地確保計画制度(TSUNAG)の運用開始(2024年)¹⁸⁾、自治体では横浜市山下ふ頭再開発テーマ「海と緑」の決定(2025年)¹⁹⁾のように、まちづくり・開発の潮流として、緑の重要性が高まりつつある。優れた都市緑地には、自治体とともに緑地の計画や維持管理に主体的に取り組む地域コミュニティや中間支援組織があり、GLSの推進にもつながっている。Park Lineは、公共空間(道路、公園、水辺)の質的転換を図り、持続的なエリアの価値向上を実現する中間支援組織である。にぎわいや交流の場となるリビングストリートにおいて、緑地が空間の主要要素となるGLS事例の普及を期待したい。

【補注】

- 1) WikipediaによればLiving Streetの起源は、1970年代のオランダのWoonerf(ヴォンエルフ)で、道路を蛇行させるなどして歩行者や自転車利用者が優先されるように設計された道路にある。

【参考文献】

- 1) Park Line 推進協議会とは, <https://parkline.jp/about/>,2025.5.20
- 2) 国土交通省:海外事例の整理・分析, <https://www.mlit.go.jp/common/001138898.pdf>,2025.5.20
- 3) Living Street Hitachi:<https://livingstreethitachi.wixsite.com/home/contact>,2025.5.20
- 4) 水戸まちなかリビング作戦, <https://www.mitomachinaka.com/mito-living2023>,2024.10.5
- 5) 国土交通省:【導入編】なぜ、今グリーンインフラなのか, https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000143.html,2025.5.20
- 6) 国土交通省:グリーンインフラ推進戦略, https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000017.html,2025.5.20
- 7) 国土交通省:グリーンインフラポータルサイト,<https://www.mlit.go.jp/sogos>

- [eisaku/environment/sosei_environment_tk_000015.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000015.html),2025.5.20
- 8) 国土交通省:まちなかウォークアブル推進事業,https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_gairo_tk_000092.html,2025.5.20
 - 9) 国土交通省:ほこみち,<https://www.mlit.go.jp/road/hokomichi/index.html>,2025.5.20
 - 10) 国土交通省:グリーンインフラ大賞(1回~5回), https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000159.html,2025.5.20
 - 11) グリーンインフラ実践ガイド, <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/content/001713035.pdf>,2025.5.20
 - 12) グリーンインフラ事例集令和6年3月版, https://green-infra-pdf.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/R5_%E3%82%AF%E3%82%99%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%A9%E4%BA%8B%E4%BE%8B%E9%9B%86.pdf,2025.5.20
 - 13) 滞在快適性等向上区域(2023年), https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_attempt_to_walkable.html,2025.5.20
 - 14) ウォークアブルポータルサイト事例, <https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/practice/>,2025.5.20
 - 15) 歩行者利便増進道路, <https://www.mlit.go.jp/road/hokomichi/pdf/ichiran.pdf>,2025.5.20
 - 16) 丸の内仲通りでレインガーデンの実証実験, <https://www.re-report.net/article/news/0000069260/>,2025.5.20
 - 17) 日本大通り社会実証 写真: <https://parkline.jp/project/>,2025.5.20
 - 18) 国土交通省:TSUNAG, tsunag-mlit.com,2025.7.10
 - 19) 横浜市:山下ふ頭再開発, <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/keikaku/yamashita/joi/hokosei.html>,2025.7.10



2001年にシンボルロード事業でリニューアル。道路中央の分離帯にケヤキ並木と遊歩道が整備され、イベントの舞台として活用中。2018年に定禅寺通活性化検討会が設立され、エリアの活性化やさらなる魅力向上につながる取組み等の検討を行っている。2023年に再整備方針が策定され、片側2車線化やスクランブル交差点化などを実施中。
LIVING STREET PROJECTを毎年開催(市民団体主催)

図1 定禅寺通り（仙台市）^{参1)}



丸の内通りは、建物低層部の改修や沿道街区の開発と整備を実施し、街並みの景観をマネジメントしながら歩道を両側7mに拡幅、樹木・ベンチ・屋外彫刻作品等を設置して豊かな歩行者環境を創出してきた。2019年より新たな街路空間のあり方や活用方法を検証する、丸の内ストリートパークと言う社会実験を実施。安全・安心に利用できる空間づくりや、更なる人のための空間創出を目指している。

図5 丸の内ストリートパーク（千代田区）^{参5)}



米軍基地跡地返還後、緑化重点地区となっているシンボルロード緑地を、まちに新たな活力と賑わいを生み出す、魅力ある空間とする。地域の景観を特徴づけている樹木を保全。外来種を整理し、多様な活動の場となる芝生広場や、豪雨災害における被害低減のため、雨水浸透機能を確保。
整備前の段階から、市民協働による管理や利活用について検討を進め、2020年オープン。

図2 シンボルロード（朝霞市）^{参2)}



本通と本通船町両商店街では2016年にアーケードの天蓋撤去により、開放感のある緑化空間へのリニューアルを実施。既存のアーケード柱を残しステンレスワイヤーを架けている。植栽等の検討は地域の意向を汲んで進められ、協定にもとづき維持管理を地域が実施。歩行者の通行量は増加し商店街の空き店舗は減少した。周辺商店街等により各種イベントで活用中。

図6 本通商店街/本通船町商店街（福岡市）^{参6)}



市民によるワークショップや社会実験、専門家、行政との連携により、まちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」を実現。河川への親水性・滞在性を重視して、河床までの高さが低く柵がない二段デッキや、柵に代えてテーブルを設けた一段/フラット・デッキ等の変化ある水辺空間を創出。市が行っていた日常的な清掃・植栽管理といった美観管理と賑わい創出を地域が担い、市が中長期管理という官民連携となっている。

図3 馬場川通りアーバンデザインプロジェクト（前橋市）^{参3)}



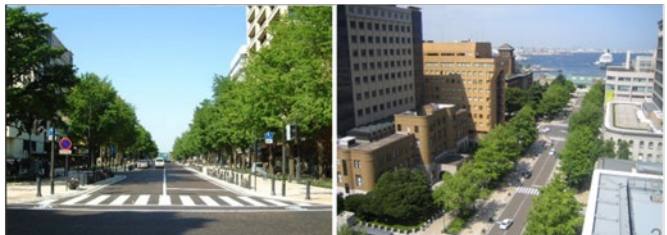
花園町通りは松山市駅から南堀端を結ぶ通りで、6車線を2車線まで減らし、自転車道を通すとともに、既存アーケードを撤去し、歩道空間を5mから最大10mまで拡幅して芝生広場やベンチの設置などを実施。2012年からワークショップと社会実験を繰り返し、賑わいと交流を育む「広場を備えた道路」をコンセプトとして、道路空間の再分配、シンボルロードにふさわしい景観整備、賑わいと交流の場づくりを行っている。

図7 花園町通り（松山市）^{参7)}



大宮駅周辺地域戦略ビジョンの「おもてなしエリア」に位置し、ストリートテラスは2017年より実施。2020年より都市計画予定道路予定区域や軒先において、ストリートランチャ、快適な街路空間を生み出すストリートプランツ等を設置し、ストリートテラスの日常化に向けた取組を実施。大宮近郊で生産されている植木を設置し、沿道のオーナー、テナントが維持管理を行い、販売利益をまちづくりに還元。

図4 おおみやストリートテラス（さいたま市）^{参4)}



再整備により車道幅員を22mから9mに縮小、植栽等を含めた歩道幅員を7mから13.5mまで拡幅し、広い歩行者空間を確保。イチヨウ並木のある街並みを活かし、官民が協力して至る所に緑が身近に感じられる街づくりを目指すと共に、新たな賑わいの創出と更なる景観向上を目指して、地区内の事業者と協働し、緑化活動を実施。

図8 日本大通り（横浜市）^{参8)}

f,2025.5.20

参9) 御堂筋 写真:https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/03osaka_midosuji_sn.pdf,2025.5.20

参10) ガーデンシティ新横浜 写真:グリーンインフラ事例集令和6年版

参11) IKEBUKURO LIVING LOOP 写真: https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/33tokyo_ikebukurolivingloop_sn.pdf,右側写真筆者撮影,2025.5.20



御堂筋完成 100周年(2037年)を目標年として、人中心の「フルモータル化」というビジョンの実現に向けて、社会実験により交通や荷捌きの影響や、パークレットを設置するなど賑わい創出の検証をしている。現在はファーストステップとして側道歩行者空間化が進行中。

図9 御堂筋(大阪市) 参9)



市で整備した緑地と民有地の緑化を連携させた空間として、公園のような街並みを目指す。町内会活動を公園内から街なかの緑にまで広げる。ガーデニングを楽しむ人々がいる街の日常風景の創出と緑を介した交流が生まれる街を目指す。レインガーデンを導入した植栽帯の拡大、民有地緑化、地域緑化活動に取り組んでいる。

図10 ガーデンシティ新横浜(横浜市) 参10)



ストリートや公園を居心地良くリビングのように過ごせる「まちなかリビング」と捉え直し、2017年から南池袋公園とグリーン大通りを活用したマーケットを開催。ローカルで魅力的な店舗や作家等が出店し、顔の見える関係を育み、消費のあり方を変える場として定期的に開催を続けている。

図11 IKEBUKURO LIVING LOOP(豊島区) 参11)

[参考資料文献]

参1) 定禅寺通 写真:https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/31miyagi_jozenji_sn.pdf,2025.5.20

参2) シンボルロード 写真:グリーンインフラ事例集令和6年版

参3) 馬場川通りアーバンデザインプロジェクト 写真:<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/content/001864865.pdf>,2025.5.20

参4) おおみやストリートテラス 写真:グリーンインフラ事例集令和6年版

参5) 丸の内ストリートパーク 写真:https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/32tokyo_marunouchi_sn.pdf,2025.5.20

参6) 本通商店街/本通船町商店街 写真:https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/40hiroshima_fukuyamahondori_sn.pdf,2025.5.20

参7) 花園町通り 写真:https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/45ehime_hanazonomachi_sn.pdf,2025.5.20

参8) 日本大通 写真:<https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/001391686.pdf>